**第10章　電気・ガス・水道**

**電気**

　昭和62年における電灯需要の契約口数をみると、383万6643口にのぼり、前年の375万4225口に比べ2.2％（8万2418口）の増加となった。その内訳をみると、定額制が47万4188口（前年比1.8％増）、従量制が335万319口（前年比2.2％増）となっている。また、使用電力量は118億9753万kWhと前年より7.3％の増加となり、１口当たりの年間使用量は3101kWhとなり、前年に比べ5.0％増加した。  
　一方、電力需要についてみると、契約口数は52万140口で、前年に比べ0.9%の増加となった。また使用電力量は338億4501万kWhと、前年に比べ6.6％の増加となっている。  
　このうち500kW未満の需要家数は51万8293件で総需要家数の99.6％と大部分を占めている。契約電力では898万3353kW、使用電力量では144億1877万kWhとなり、それぞれ64.5％、42.6％のウェイトを占めている。前年に比べ、契約電力は1.6％の増加、使用電力量は7.9%の増加となっている。  
　なお、500kW以上の大口電力契約による需要家数は1847件で、前年より1.4％の増加となり、契約電力は493万6647kWと0.7％の増加となり、使用電力量も194億2624万kWhと5.7％の増加となっている。

**ガス**

　昭和62年中の大阪ガス株式会社における都市ガスの生産量は、28億1800万m3で前年の28億4619万m3に比べ、1.0％の減少を示した。この内訳は石炭ガスの生産量が３億1199万m3で、前年に比べ6.7％の減少、混入ガスの生産量が25億601万m3で、前年に比べ0.2％の減少となっている。石炭ガスの生産量は55年以来減少を続けており、混入ガスは60年まで増加していたが、61年に引き続いて62年も減少となっている。  
　一方、消費量は20億8513万m3で、前年に比べ4.7%の増加となった。これは、公用が6368万m3、家庭用が9億6038万m3と、それぞれ0.8%、0.1%の減少となったものの、工業用が6億9172万m3と14.7％もの大幅な増加となったためである。

**水道**

　昭和62年度における上水道の給水総量をみると、年間給水量は13億3378万m3で前年に比べ、2.2％の増加となっている。これを地域別にみると大阪市地域が5億4048万m3で全体の40.5％を占めている。  
　栓数は269万8884件で、前年に比べ2.5％の増加となっている。  
　また、１人１日平均給水量は420 ｌで前年に比べ7 ｌ増加した。これを市町村別にみると、１位が大阪市の559 ｌで、以下岬町の451 ｌ、美原町の431 ｌの順となっている。  
　工業用水の使用状況をみると、１日当たりの総使用量は、前年比1.0％増の905万5607m3となっている。  
　このうち淡水の使用量は791万6877m3で、全体の87.4％（前年に比べ0.5ポイントの低下）を占めており、前年に比べ0.4％の増加となっている。これを水源別（淡水）にみると回収水が大半の85.8％を占めており、なかでも化学、鉄鋼が回収水全体のそれぞれ48.4％、24.0％とこの２業種で７割以上を占めている。  
　次に府下における昭和62年度末現在の下水道の普及率をみると、排水施設が62.6％で前年度より1.7ポイントの上昇となっている。このうち、大阪市地域は排水施設、処理施設ともに99.7％とほぼ全域に普及している。  
　また、都市下水路延長では、都市計画決定が９万3971m、供用開始が6万5203mとなっている。